

金谷地域

1 地域の将来像

「産業と観光が一体となりにぎわいと交流を創出し健やかに暮らせるまち」

2 地域づくりの目標

(1) 金谷公民館を中心に地域がまとまり安心して暮らせるまち

金谷公民館周辺の地域拠点においては、医療・福祉・商業・子育て支援施設などの都市機能の誘導を図り、安心して暮らせるまとまりのあるまちづくりを目指します。

(2) 空き地などを活用した交流空間の創出

地域内に点在する空き家や空き地などをリノベーションし、地域の交流空間として利活用することで、多世代がつながり交流するまちづくりを目指します。また、耕作放棄された茶畑や農地などを農業体験の場などに利活用することで、豊かな自然を活かした交流機会の創出を図ります。

(3) 大井川などの自然を活かした企業誘致の促進

大井川の豊かな水資源を活かした企業誘致を促進することで、新たな雇用の創出を図り、活力のあるまちづくりを目指します。

(4) 歴史と文化が人をつなぐまち

諏訪原城跡や茶の都ミュージアム、旧東海道石畳などの地域に点在する豊富な観光資源が持つポテンシャルを強化するとともに、それぞれの観光資源と地域拠点をつなぐネットワークの形成を図ることで、歴史と文化が人をつなぐまちづくりを目指します。

(5) 充実した公共交通のあるまち

東海道本線・大井川鐵道大井川本線・コミュニティバスなどの公共交通の利用促進を図ることで、公共交通が充実したまちづくりを目指します。また、新たに整備される賑わい拠点やKADODE OOIGAWAなどと地域拠点間が、円滑に移動できる交通ネットワークの形成を図ります。

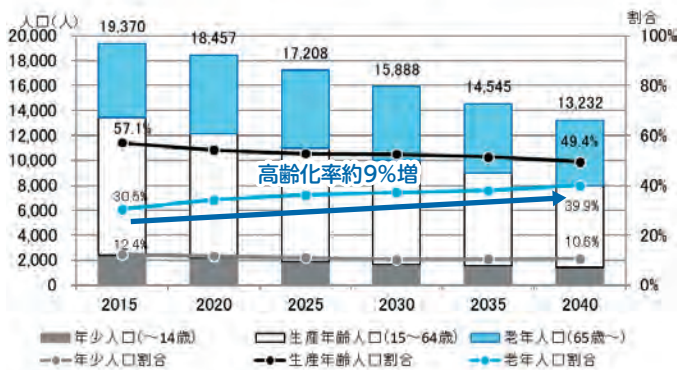


3 金谷地域の概況

(1) 位置・人口

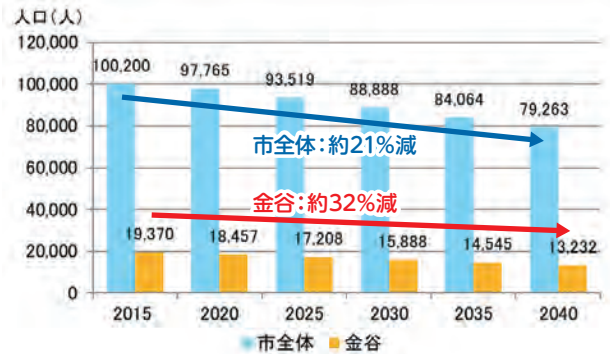
- ・金谷地域は、本市の西部に位置し、西側は掛川市・菊川市に接し、東側は大井川に面しています。
- ・本地域の南部は都市計画区域に指定されており、このうち東海道本線と国道1号に挟まれたエリアや新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺の大井川沿いは用途地域に指定されています。
- ・今後の人口推移については、2015年から2040年までの25年間で約32%減少することが予測されています。一方、高齢化率については、25年間で9%増加し、2040年には約40%になることが予測されています。
- ・人口密度については、今後特に金谷駅や新金谷駅周辺などにおいて低下することが予測されています。

金谷地域の人口推移予測 (2015→2040)

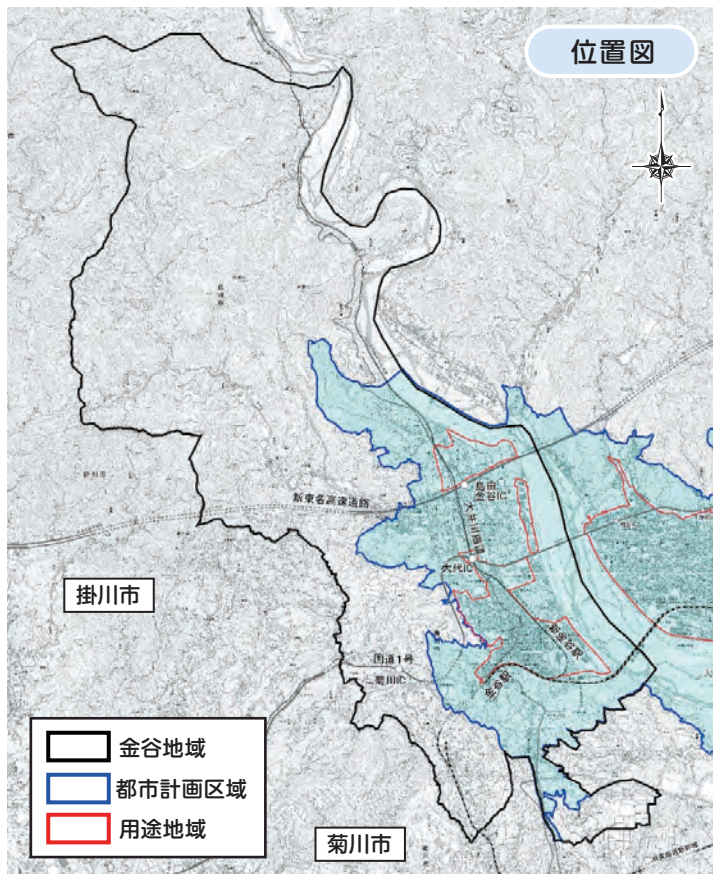


出典：島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン令和元年度改定版

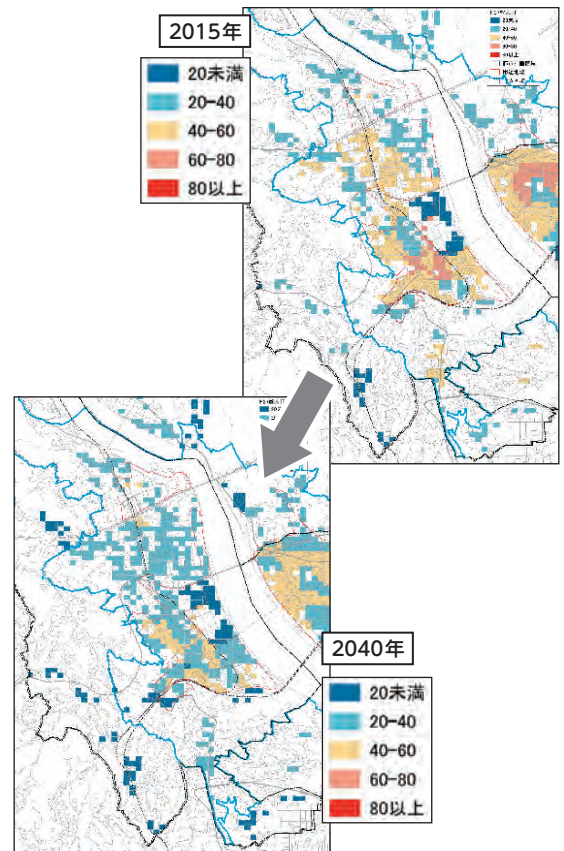
市全体と金谷地域の人口推移の比較(2015→2040)



人口密度の推移予測



国土地理院 1/25,000地形図を加工



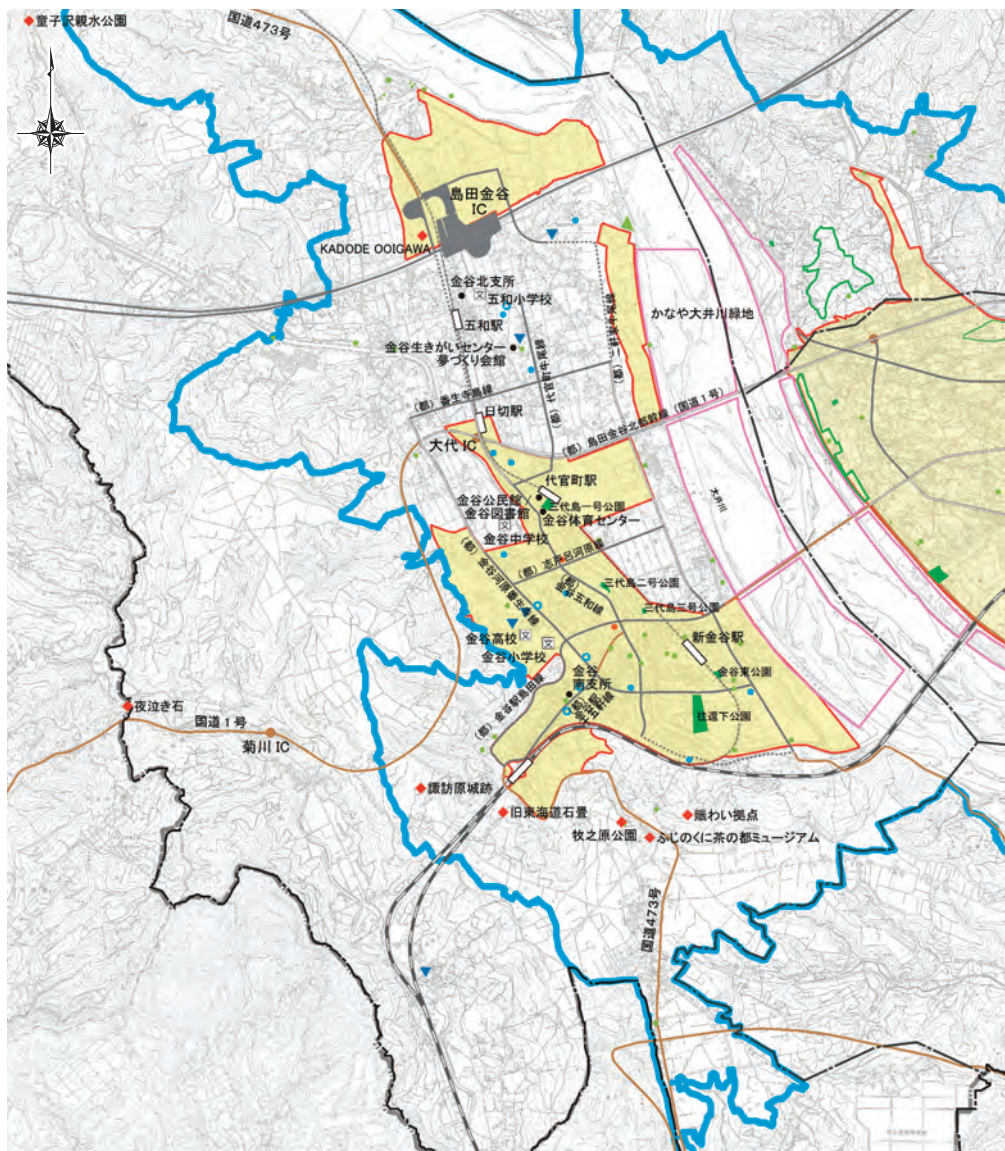
100m×100m内の人口

出典：将来人口、世帯予測ツール(国土交通省国土技術政策総合研究所)

(2) 都市施設・公共公益施設などの状況

- ・新東名高速道路島田金谷インターチェンジが広域交通の拠点となっています。都市計画道路は、島田金谷北部幹線(国道1号)、金谷五和線(国道473号)、金谷駅島田線などの幹線道路が骨格を形成しています。
- ・東海道本線金谷駅、大井川鐵道新金谷駅などが公共交通の交通結節点となっています。
- ・都市計画公園は、街区公園、近隣公園の整備が完了しています。
- ・金谷公民館、金谷北支所及び金谷南支所周辺に、学校、幼稚園・保育園、医療施設、高齢者福祉施設、商業施設などが分布しています。
- ・大井川鐵道のSL、旧東海道石畳、諏訪原城跡などの観光・歴史資源が分布しています。

都市施設・公共公益施設図

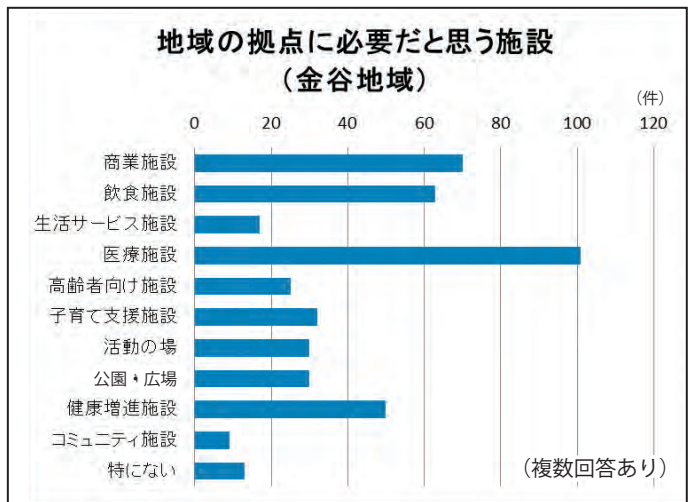
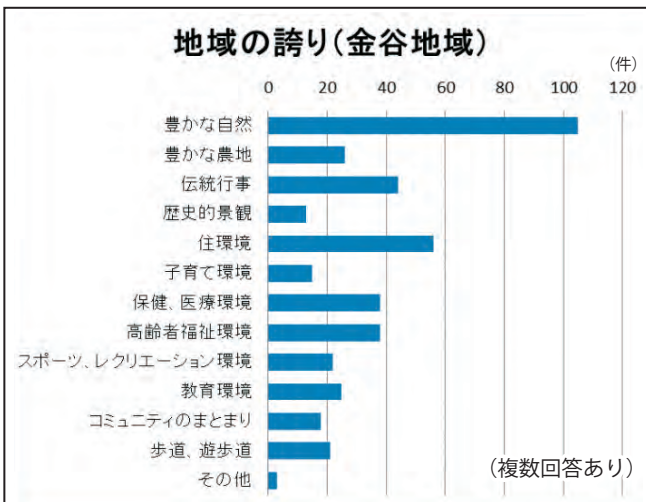
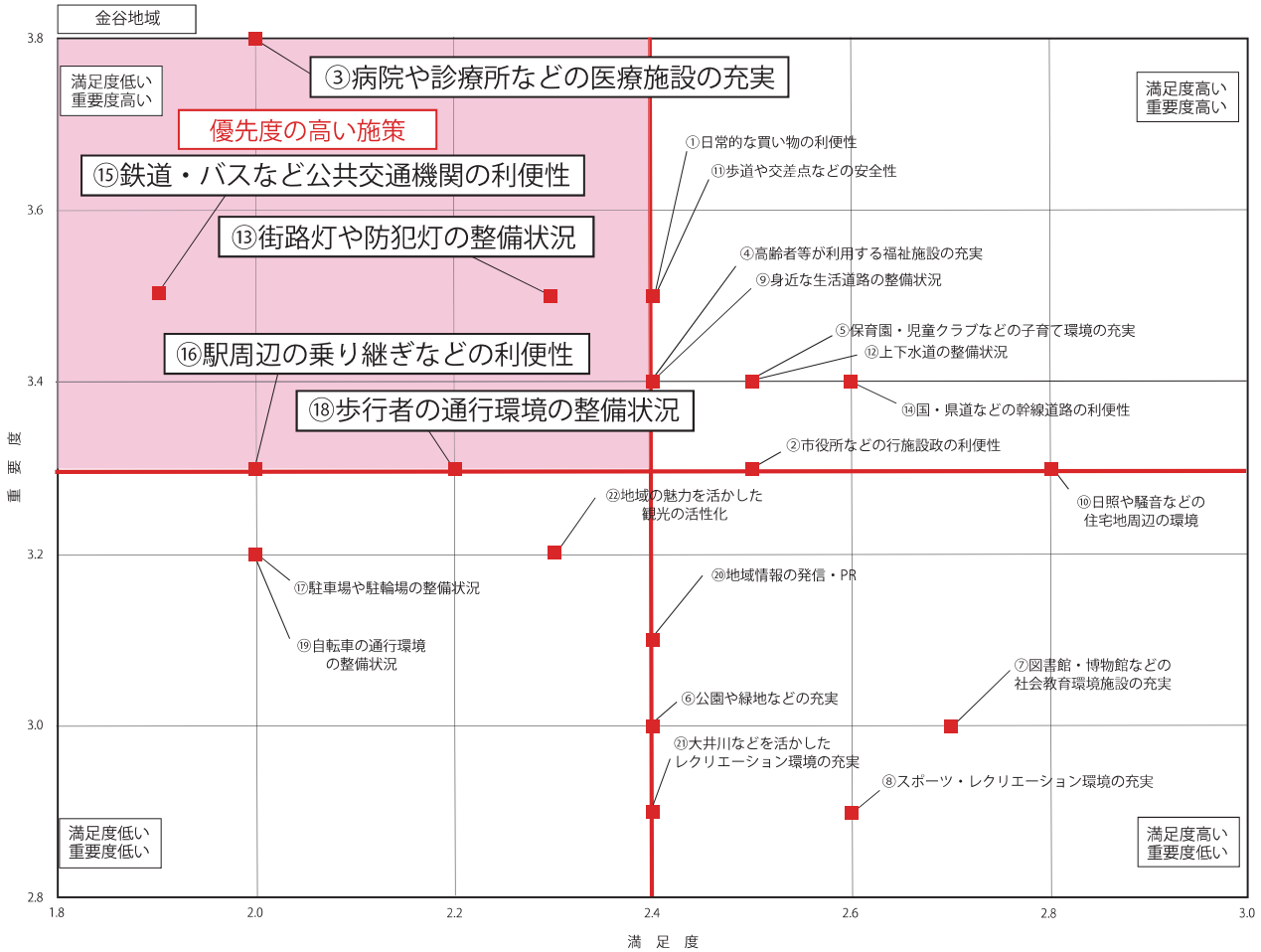


都市計画道路	都市計画公園	公共公益施設(現況)
— 改良済	■ 整備済	□ 学校
— 概成済	□ 計画	● 主要な公共公益施設
⋯ 未改良	□ 一部整備済	◆ 歴史・文化・観光施設
— その他の主要道路	● その他公園緑地	▲ 幼稚園・保育園
		● 高齢者福祉施設
		● 医療施設(内科・外科)
		● 商業施設(店舗面積1,000㎡以上)
		□ 金谷地域
		□ 都市計画区域
		□ 用途地域

(3) 都市計画マスタープラン市民意識調査結果(金谷地域回答数182)

- ・地域のまちづくりにおける満足度・優先度から読み取れる優先度の高い施策については、医療施設の充実、公共交通機関の利便性、防犯灯や歩行者の通行環境の整備などが挙げられています。
- ・地域の誇りについては、「豊かな自然」、「住環境」、「伝統行事」などに多くの意見がありました。
- ・地域の拠点に必要なと思う施設については、「医療施設」が最も多く、次いで、「商業施設」、「飲食施設」、「健康増進施設」などの意見がありました。

地域のまちづくりに対する満足度・重要度



4 金谷地域の全体構想の位置付け

【地域の拠点】

- ・地域拠点：金谷公民館周辺

【その他の拠点】

- ・観光・交流拠点：KADODE OOIGAWA、旧金谷中学校跡地、ふじのくに茶の都ミュージアム周辺、金谷駅、諏訪原城跡周辺
- ・産業誘致拠点：島田金谷インターチェンジ周辺

【軸】

- ・自然の骨格軸：大井川
- ・国土軸：新東名高速道路
- ・都市間連絡軸（道路）：国道1号、国道473号
- ・拠点間連絡軸（道路）：（一）島田岡部線、（一）住吉金谷線、（主）細江金谷線
- ・都市間連携軸（鉄道）：東海道本線
- ・拠点間連携軸（鉄道）：大井川鐵道大井川本線



5 金谷地域の課題

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりの実現に向けた地域の課題を次のように整理します。

- 今後の人口減少を踏まえ、金谷公民館周辺の地域拠点において、医療・福祉・商業などの都市機能の維持・充実及び周辺の人口密度の維持を図る必要があります。
- 都市間・拠点間連携軸の充実を図り、交通渋滞の緩和や安全な歩行空間の確保を進めていく必要があります。
- 金谷公民館、JR金谷駅、新東名島田金谷インターチェンジ周辺などを交通結節点とし、日常生活での移動や観光・交流の観点から、効果的・効率的な公共交通網を形成していく必要があります。
- 浸水想定区域や土砂災害の危険性があるエリアが存在し、ソフト・ハードにわたる防災・減災の取り組みを進める必要があります。
- 大井川や森林などの良好な自然環境、大茶園などの保全・活用を図る必要があります。また、優れた眺望点、諏訪原城跡などの歴史資源などを含め、自然・歴史・文化と調和した良好な景観の形成を推進する必要があります。

6 地域づくりの方針

【金谷地域】

(1) 拠点づくりの方針

ア 地域拠点の核となる金谷公民館周辺の整備

地域拠点については、金谷公民館周辺を位置付け、現在金谷地域内にある2か所の支所機能を統合し、健康・福祉・交流などの機能を有する地域の拠点を形成します。

また、地域拠点においては、都市施設の整備と併せ、医療・福祉・商業・子育て支援といった都市機能の誘導を行うとともに、各地域からのアクセスがしやすい公共交通の確保を図ります。

金谷公民館 (みんくる)



(2) 土地利用の方針

ア 地域拠点や鉄道駅周辺の利便性の高い居住環境の形成

地域拠点や鉄道駅周辺については、生活利便性を活かし、子育て世代をはじめ多世代が住みやすい快適な居住環境の形成を図ります。

イ 多世代が住みやすい居住環境の維持・形成

往還下地区の住居系用途地域については、地区計画制度により、良好な住宅地としての環境を維持します。

新東名島田金谷インターチェンジ周辺地区の住居系用途地域については、地区計画制度により、良好な住宅地としての環境の形成を図ります。

ウ 新東名島田金谷インターチェンジ周辺の企業誘致・工業用地整備の推進

新東名島田金谷インターチェンジ周辺については、地区計画に基づき、道路などの基盤整備を進めるとともに、広域交通の利便性や地域特性を活かし、新たな産業の創出や次世代の成長産業分野の企業誘致を推進します。

エ 集落地環境の保全

集落地については、自然や農地に囲まれた良好な環境を保全し、快適な居住環境の形成を図ります。

良好な住環境のイメージ



工業用地整備のイメージ



オ 空き地・空き家の利活用

今後、増加が予測される空き地・空き家については、リノベーションなどにより地域住民の交流の場などとしての活用や所有者と活用したい人のマッチングなどを通じた利活用を検討します。

カ 用途地域内農地の利活用

用途地域内の農地については、農産物の生産のほか、防災、環境保全など都市における多様な機能を有しており、計画的に保全・活用を図ります。

(3) 交通の方針

ア 幹線道路の整備

東名高速道路、富士山静岡空港、新東名高速道路、市の中心拠点などへのアクセス機能の強化に向け、国道1号の4車線化、国道473号バイパスの早期完成、菊川インターチェンジのフルインターチェンジ化、大代インターチェンジの完成型及び、国道1号大代インターチェンジから新東名島田金谷インターチェンジ間の4車線化について、国・県に整備を働きかけます。

また、快適な地域内交通を確保するため(都)二軒家牛尾線や島竹下線などの整備を推進します。

イ 生活道路の整備・修繕

快適な生活の基盤となる生活道路については、歩行者の安全性・快適性を高めるため、市民との協働を図りながら管理を行い、拡幅整備や修繕は、優先度を踏まえ計画的に推進します。

また、通学路については再点検を行い、安全確保のため、歩道、交通安全施設(ガードパイプ)、路面標示などの整備を推進します。

ウ 歩行者ネットワークの形成

JR金谷駅から大井川鉄道新金谷駅を結ぶ歩行者動線を形成し、周辺の地域資源をつなぐ回遊性のある歩行者ネットワーク形成を図ります。

エ 交通結節点の整備

地域拠点である金谷公民館周辺やJR金谷駅などにおいて、バスなどの乗り継ぎの利便性を高める取り組みに努めます。

また、「KADODE OOIGAWA」では、大井川鉄道新駅の整備と合わせて、鉄道やバスなどの複数の交通機関を連携させるマルチモーダル^{*}施策を推進します。

*マルチモーダルとは、効率的な輸送体系の確立を目指し、道路・鉄道など複数の交通機関を連携させる交通施策のこと

金谷駅



オ バスなどの公共交通の充実

公共交通については、移動ニーズに合わせたバス、タクシーなどの効果的・効率的な運行を検討します。また、地域主体の自家用有償旅客運送制度の導入を検討します。将来的にはICTなどを活用した移動サービスの導入を検討します。

(4) 安全安心・コミュニティの方針

ア 水害対策の推進

大井川については、「大井川水系河川整備計画」に基づき必要な改修を国に働きかけます。また、大代川、新堀川、清水川、童子沢などは緊急性・重要性を踏まえ、改修を県に働きかけます。

地域の雨水対策は、都市下水路の施設整備や河川、水路、調節池などの治水対策を検討します。

浸水想定区域においては、大雨時に市民などが災害時に適切な避難行動が取れるよう、洪水ハザードマップの周知や自主防災組織による地区防災マップづくりを促進します。

イ 土砂災害対策の推進

土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域については、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づき、危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅の新規立地の抑制などの対策を推進します。

また、駅周辺の斜面地に発達した宅地については、安全性の確保に努めます。

ウ 治山事業などによる森林環境の保全

大雨による洪水や土砂災害などの災害を防ぐ公益的な機能を有する森林環境の保全のため、治山事業や林道事業について、優先度を踏まえつつ事業を実施するとともに、工事の難易度に応じて県に働きかけます。

エ 避難路の安全性向上、緊急輸送路の整備

避難路については、家屋の倒壊対策や危険なブロック塀などの撤去を推進し安全性を高めます。

緊急輸送路については、「地域防災計画」において指定されている、(市) 菊川神谷城線の整備を推進します。

オ 防犯・交通安全の推進

防犯対策については、地域の要望に応じ、自治会や町内会が行う防犯灯のLED化を支援します。

交通安全対策については、交通事故発生箇所の把握や地域要望などを踏まえ、カーブミラー、ガードレールなどの交通安全施設の整備を推進します。また、信号機や横断歩道の整備を関係機関に働きかけます。

通学路については、犯罪の防止・抑止や交通安全のため、地域における見守隊などの活動を積極的に支援します。

カ 学校などにおける地域交流機能の充実

地域活動や生涯学習の支援については、学校などの施設を地域に開放し利用を促進するとともに、地域の防災拠点として活用します。

キ 各種コミュニティ施設の活用

地域のコミュニティ機能については、公民館などを生涯学習や市民活動・交流の拠点として、また地域子育て支援センターなどを子育て支援の拠点として活用します。



(5) 活力・魅力づくりの方針

ア 賑わい拠点の形成

旧金谷中学校跡地周辺については、民間活力の導入を図り、富士山静岡空港や「ふじのくに茶の都ミュージアム」と連携して賑わい拠点を形成します。

イ 「KADODE OOIGAWA」によるにぎわいの創出

新東名島田金谷インターチェンジ周辺において、官民連携により、本市の魅力に触れることのできる拠点「KADODE OOIGAWA」を整備し、観光交流人口の拡大と合わせて、にぎわいの創出を図ります。

「KADODE OOIGAWA」の整備イメージ



ウ 観光資源のネットワーク化

大井川流域の観光団体などと連携してサイクルツーリズムの情報発信を行い、自転車による観光ネットワーク化の促進を図ります。

エ 観光・交流拠点の形成

JR金谷駅周辺、大井川鐵道新金谷駅、新東名島田金谷インターチェンジ周辺は、観光・交流拠点と位置付け、本地域や大井川鐵道沿線の観光の玄関口として、にぎわい・交流機能の充実を図ります。

オ 豊富な歴史・文化・観光資源の継承と活用

地域資源を活用した魅力づくりについては、諏訪原城跡の復元・保存管理と見学者の利便性向上につながる整備を推進します。また、旧東海道石畳、「ふじのくに茶の都ミュージアム」などと、ネットワーク化を図るとともに、市民・事業者・関係団体と連携して来訪者が滞在して楽しめる仕掛けを推進します。

旧東海道の石畳



カ 大井川河川敷の整備・利活用

大井川河川敷の整備・利活用については、市民が多様なスポーツ・レクリエーションの活動の場として活用できるよう、市民の意見や利用者ニーズなどを踏まえ取り組みます。

キ 移住・定住の促進及び交流・関係人口の拡大

中山間地域では、空き家のリノベーションを支援するなどして、移住・定住の受け皿として利活用を促進するとともに、自然型体験ができる農家民宿や民泊の普及促進について検討します。

(6) 環境との調和の方針

ア 農地の保全・活用

本市の基幹作物である茶については、茶畑の優良農地を保全するとともに、集積・集約化を図ります。

農地については、国土や自然環境の保全、水源かん養、景観形成、災害時の防災空間などの多面的機能を有することから、都市的土地利用との調整を行う中で、「島田市農業振興地域整備計画」などによる適正な保安全管理に努めます。

また、農業体験の場や地域住民と都市住民との交流の場として活用します。

イ 森林の保全・活用

防災機能、水源かん養機能、二酸化炭素の吸収源、木材生産の場などの機能や森林景観を保つため、森林の保全や管理に努めます。

森林を適正に管理する取り組みについては、間伐や下草刈り、放置竹林の伐採など森林所有者に対し必要に応じて支援します。

市民参加による放置竹林の伐採・下草刈りなど、里山の維持管理活動を促進します。また、小中学生の自然体験活動や環境教育の推進などに努めます。

ウ 地域の自然・歴史・文化と調和した景観づくり

大井川、童子沢親水公園、旧東海道石畳、大井川鐵道のSL等の地域の特性と調和した良好な景観の形成を推進します。

また、牧之原公園などは、市街地が眺望できる良好な区域として景観の保全に努めます。

エ 工業地緑化の推進

大井川沿いの工業地については、周辺環境に配慮し、事業者による敷地内の緑化を促進します。

オ 環境にやさしいライフスタイルへの転換

低炭素・循環型都市の形成のため、住宅については、太陽光発電や蓄電池の設置、雨水浸透ますの設置など、移動については公共交通や自転車・徒歩で移動しやすい環境の整備を促進します。

童子沢親水公園



